

2010.10.15

<ご参考情報> ウォルマートが「持続可能な農業」の取組み目標を発表

全世界で中小規模農家との取引拡大、食品廃棄物の削減、主要農産物の持続可能な調達に注力

以下は、ウォルマート・ストアーズ・インクが2010年10月14日（現地時間）に米国アーカンソー州ベントンビルにて発表した英文プレスリリースの和訳です。

【2010年10月14日：米国アーカンソー州ベントンビル発】

ウォルマート・ストアーズ・インク（以下、ウォルマート）は、持続可能な農業に関する世界規模の取組みを開始すると発表しました。今回発表された取組みは、各国の中小規模農家の事業規模拡大や農業収入の増加、農業生産に伴う環境影響の軽減などを促進するものであり、同時に、地域経済の活性化や、世界各国の消費者への低価格で高品質な生鮮食品の長期安定供給の実現を目的としています。

ウォルマート社長兼最高経営責任者（CEO）のマイク・デュークは、「現在、世界では10億人以上の人々が農業で生活しており、そのうち、何億人もの人々が一日2ドル以下の収入で暮らしていると言われていています。一方、世界の人口増加により、2050年には、90億人分の食料を賄うために、食料生産を今より約70%増加させる必要があります」と語りました。

デュークはこうした現状を踏まえ、「ウォルマートは、持続可能な農業への取組みを通じて、食料生産と、それに関わる農家、生産者地域、そして消費者に対して、積極的に貢献を行うことが可能な比類のないポジションにあります。この取組みを通じて我々は、農家の収入の増加や、農業、肥料、水資源などの効率的な利用促進に寄与すると共に、お客様に更に鮮度の高い生鮮食品をお届け出来るようになると確信しています」と述べました。

ウォルマートの打ち出した「持続可能な農業」の戦略は、大きく3つの分野に分かれており、それぞれの分野で、進捗状況が確認できるよう具体的なゴールが定められています。

農業生産者と生産地域を支援

世界では、10億人以上の人々が農業を生活の糧としています。ウォルマートは2015年末までに、以下の取組みを通じて、新興国市場の多くの中小規模農家に対して市場への参加機会を提供していきます。

100万人の中小規模農家から調達した食品を10億ドル販売 農業従事者100万人（うち半数は女性）に、作物の選別や持続可能な農業慣行などについてのトレーニングを提供

ウォルマートの調達先の中小規模農家の収入を10~15%向上

米国においては、地場調達青果の売上げを増倍させ、厳選した米国産農作物の仕入れを拡大

より少量の資源でより多くの食料を生産し、廃棄物を更に削減

ウォルマートは、世界最大の食料品サプライチェーンを持つ企業の一つです。今後、次のような取組みの展開を通じて、食料生産のために必要とされる資源の節減・最適化に努めると共に、より一層透明性の高いサプライチェーンの構築を推進する方針です。

主要取引先に対して、単位あたりの農産物生産に要する水、エネルギー、肥料、農業などの投入状況を調査・確認

「サステナビリティ・インデックス」の農業分野への適用の一環として、2011年からグローバル・フード・ソーシング部門の調達先への「サステナビリティ・アセスメント」の導入

今後5年間で、世界の生鮮サプライチェーンに10億ドル以上を投資

2015年末までに、店舗における食品廃棄物を、新興国市場においては15%、その他の市場では10%削減します。

重要農産物を持続可能な方法で調達

農業活動は、時として、熱帯雨林の破壊や二酸化炭素排出量の増加など、予期せぬ悪影響をもたらします。ウォルマートは、世界の森林破壊に影響を及ぼす要因のうち、パーム油と牛肉の生産という二つのテーマに焦点をあてて、以下を実行します。

2015年末までに、全世界のウォルマートのプライベート・ブランド商品に使用されているパーム油を、持続可能な方法で調達されたものに転換（英国と米国の2ヶ国のみで、プライベート・ブランド商品に使われているパーム油を、持続可能な方法で調達されるパーム油に転換するだけでも、2015年末までに500万トンの温室効果ガス排出量削減効果が見込まれます。）

アマゾン熱帯雨林の伐採に関与しない牛肉のみを調達するという、ウォルマート・ブラジルで既に実施されている取組みを、2015年末までに全世界のウォルマート・グループ企業に展開（ブラジル・アマゾンの森林破壊の60%は、畜牛用牧場の拡大に関連していると推定されます。）

ウォルマートは、これらの目標の達成に向けて、世界各国で具体的な取組み目標を設定しています。以下は、各国毎に立てられた目標の一部です。

インド：青果の50%を農家から直接調達

中国：有機認証商品の割合を直接調達の青果の15%に拡大

日本：店舗での青果廃棄ロスを35%低減させ、青果の直接調達先の農家を15,000戸から17,000戸まで拡大

カナダ：毎年青果の品揃えの30%を地場で調達

ウォルマートは、米国においては、自らが主導する「伝統的農業」プログラムを通じて、地場産の食品の売上げを増やすことを目指しています。このプログラムは、伝統的に農業が盛んな州や地域からの農産物の調達に焦点を当てており、現在は、東海岸のI-95沿いの地域、南部デルタ地域、中西部のアメリカ中部地域の3地域が中心です。I-95沿いの地域からはトマト、ブルーベリー、プロックリを、南部デルタ地域からは桃、キュウリ、イチゴを、アメリカ中部地域からはジャガイモ、タマネギ、リンゴなどを調達しています。

ウォルマートは、これらの目標の設定にあたり、多くの取引先、学識経験者、NGOと協働してきました。その中には、WWF（世界自然保護基金）、コンサベーション・インターナショナル、レインフォレスト・アライアンス、ネイチャー・コンサーンション、NRDC（天然資源保護協議会）などが含まれます。

ウォルマート・ストアーズ・インクについて

ウォルマート・ストアーズ・インク（ニューヨーク証券取引所:WMT）は、世界15ヶ国において、55の店舗名で8,400以上の小売店舗を運営しており、毎週延べ2億人以上のお客様が来店しています。2010会計年度の売上高は、4,050億ドルで、世界中で2億人以上のアソシエイトを雇用しています。サステナビリティや、社会的慈善事業、雇用機会の提供といった分野をリードするウォルマートは、2010年フォーチュン誌の「世界で最も賞賛される企業」の小売業部門で1位になりました。ウォルマートに関するより詳しい情報は、www.walmartstores.comまたはツイッター http://twitter.com/Walmartnewsでご覧下さい。また、オンラインでの商品の販売も、www.walmart.comまたはwww.samsclub.comで実施しています。